

# キラリ☆ 中野のチカラ

芋川 嘉寛 さん 【牛出】



市内の味噌蔵の三代目で、北陸信越ブロック商工会議所青年部連合会の会長を務める芋川嘉寛さん。日々、県内外の商工会議所を飛び回りながら、伝統の味噌の味を守り継ぐ芋川嘉寛さんにお話を聞きました。

## ○わたしの仕事

実家が祖父の代から始まった創業82年の味噌蔵です。小さい時から二代目である父の姿を近くで見えてきて、自然と家業を継ぐことになりました。

味噌の製造から営業まで全て行っており、私は父が作り上げた味噌の味を守り、さらに販路を広げられるように取り組んでいます。

味噌の仕込みは、春先の最盛期だけでなく、通年にわたり行っています。これは、お客様のニーズに合わせて、いつでも同じ品質の商品を手にとり取ってもらえるようにするためです。

味噌造りは微生物が相手なので、夏の暑さや冬の寒さなどに対して、生育しやすいように温度と湿度を管理することにとっても気を使います。

## ○仕事の魅力

お客様から直接「おいしい」という言葉をいただく嬉しいですし、「変わらないモノづくり」ができています。また、商工会議所の活動にも積

極的に参加しています。地元の同年代の経営者から、異業種の違う視点での話が聞けて刺激を受けています。こういった仲間とのつながりや出会いも、私にとって大きな財産です。

## ○今後の抱負

地元の小学生や農協の青年部と一緒に、中野市産の大豆を使って味噌造りをしています。初めは地産地消の取り組みでしたが、最近では味が認められてギフトにも使ってもらえるようになりました。今後は「地産外消」として、全国にどんどん発信していきたいです。

## ○中野市民へ一言

9月19、21日に、日本商工会議所青年部の北陸信越ブロック大会が25年ぶりに中野市で開催されます。石川、富山、新潟、長野の4県から千人の商工会議所青年部メンバーの参加を目指し、準備に邁進しています。9月20日(土)には、県内各地のご当地グルメをはじめとした名産品を味わえる物産展も開催しますので、たくさんの方のご来場をお待ちしています。



## 広報クイズ

### ■今月のプレゼント

「信州の伝統野菜 ぼたんこしょうセット」：2人

### 問題

平成28年から新たな国民の祝日となる「山の日」はいつ？

「●月●日」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などをはがきに書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 8月25日(月)必着  
※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 本市に寄贈された新品種のバラの名称は？  
答え・・・「なかの小町」

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課  
秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・  
電話番号・世帯主

# 市民リレー元気の輪

No.2

吉岡 勝さん  
からのご紹介



## ○自己紹介

夫と夫婦2人で暮らしています。私が子育てをしていた際に、知り合いのおばあちゃんが子どもの面倒を見てくれたことで仕事を続けることができました。このことがきっかけで、子どもが手を離れてから、何か人の役に立ちたいという思いで、積極的にボランティア活動に取り組んできました。

目が不自由な方のために、点字や朗読などでお手伝いをしてきました。がある時、お茶を湯呑の7分目にこぼすことなく注がれて驚いたことがあります。どうして分かるのかと尋ねると、「音」で分かるとのことでした。目が見えなくても、耳や鼻、心が研ぎ澄まされていけば、普段私



徳竹 常子 さん (栗和田)

たちが気付かないような音や匂い、想像力を駆使して、さまざまな「見える」のたとえを教えてもらいました。ボランティアは大変でしょうと言われますが、大切な仲間のような利用者の方がいるから続けられたのだと思います。



▲仲間と木彫りを楽しむ徳竹さん

## ○元気の秘訣

生け花、木彫り、折り紙、ボードウォッチングなどを仲間と楽しんでおり、それぞれの集りの様子や作品などの写真を、自分でパソコンで整理しています。制作などの趣味の世界に没頭することも楽しいですし、それぞれの仲間と会って、お茶を飲みながらわいわいと話をするのも元気の秘訣かもしれません。

## ○おらほの自慢

東山の桜、一本木公園のバラ、谷蔵寺のあじさい、浜津ヶ池のハスなど、中野市には、季節ごとにきれいな花が見られる場所がたくさんあることが自慢です。

# 池田市長の

# わくわくしポート

vol. 13



## 山・森林資源の活用

第41回中野シヨンシヨンまつりが盛会のうちに終わった。今年は燃えるように暑い一日だったが、市民の皆さんの力によって、暑さを忘れ、夏の心地よい祭りとなった。改めて、関係者の皆さんにこの場をお借りして、御礼申し上げます。

さて、7月といえば「海の日」が想起されるが、このたび、長野県では7月の第4日曜日を「信州 山の日」として制定した。「山」に感謝し「山」を守り・育て・活かす」ための機運の醸成を目指してのスタートである。山は私たちにたくさん恵みをもたらしていることは言うまでもない。山と山に包まれた私たちの故郷は、その景観だけでも観光資源となる。加えて、昨今ベストセラーとなった「里山資本主義」(藻谷浩介著)にもある通り、山岳資源の活用は21世紀の大きな地域発展の力となる。オーストリアだっ



たと思うが、森林資源として木材をチップにし、燃料とすることで循環型社会を実現している

いった記述があった。私たちの住む中野市の森林面積は、市の面積のおよそ30%と少ないが、周りは全て山である。山の資源を活用して、循環型都市・環境にやさしい都市づくりは中野市にも可能ではないかと思っている。1990年代初頭にコジエネレーション推進を唱えた通産省の方がいた。また、当時21世紀を展望して3つのE (Energy security: エネルギー安定供給、Economic growth: 経済成長、Environmental conservation: 環境保全) が21世紀の主要課題となると提唱されたが、それから四半世紀たった今、まさにその通りの時代を迎えたと思う。周囲にある不要と思われるものや気付かなかつたものを資源として再生させ、活用することが、21世紀型日本の地方の活力を生み出すはずだ。わが国の森林面積は国土の68.5% (2010年) で、OECD加盟34カ国中、フィンランド、スウェーデンに次ぐ第3位である。国内の木材市況が悪化し、国内の林業が厳しい状況になったが、これからは、身近な山の活用、森林資源の活用を、3つのEの視点から見直す機運が高まってくれば良いと思う。